



# さくら 2009 新春

発行  
社会福祉法人 東桜会  
第 22 号  
〒420-0962  
静岡県葵区東 527 番地の 1  
特別養護老人ホーム 麻機園  
TEL 054(247)8739  
FAX 054(247)8640

皆様、明けましておめでとうございます。

元旦の富士山は実に美しかった。近隣町民の皆様と安倍川近くの神社で盃を挙げ新年を祝った。地域の長老や町内の役員五、六十名が顔を合わせ一年間、事故なく、町内仲良く運営していくために古くから、新春恒例の行事として行われて来たものである。

昨年来、派遣職員切り、百年に一度の不景気とマスメディアを通じて見聞きするニュースは明るいものが少なく、集まった皆様の話題も同様に商店街の売上げが伸びないこと、理容所のお客が減ったなど、新春にふさわしい話とはほど遠いものであった。

そんな中で古老の結びの言葉として「日本は敗戦という苦い経験をしている。その頃を思い出せば数年の年月はかかっても今を乗り越えるのは何でもない事だ。無駄を省き、皆で助け合えば必ず良くなる」という元気な挨拶であった。

閑話休題

日本のみならず、世界の不況はしばらく続くものと思われます。

当然のことながら、福祉の分野も影響は及びますが、苦しい時こそ原点に帰り、創意工夫と持ち場、持ち場で今何を為すべきかを考え忠実に実行する事が大切であると思ひます。

新しい年が始まりました。

「以和為貴」明るい東桜会、明るい一年でありたいものです。

理事長 長谷川達也

## 元 旦 祭



元旦、今年も新春の集い「元旦祭」が行われました。恒例の職員による出し物は『麻機ちんどん』ちんどん屋さんです。皆さんの知っている曲をクラリネットと太鼓で演奏すると、皆さん一緒に口ずさみ、職員の衣装と化粧には大笑いしていました。お昼は色とりどりのおせち料理とお雑煮です。「これで一年健康に暮らせるよ」とたくさん召し上がって頂きました。

『今年一年をどう過ごしたいですか?』との質問に、『元気に、健康で、皆さんと仲良く過ごしたい』と多くの方が答えていました。今年も一年元気に、健康で、仲良く暮らしましょう。



### 新職員の紹介



事務員 関 知美

平成20年11月より麻機園の事務員になりました。事務所内の先輩方はもちろん、寮母、入所者の方々、ご家族様より教えて頂く事が多く、勉強の毎日です。早く仕事に慣れて、皆さんから信頼される『縁の下の力持ち』になれる様に頑張ります。よろしくお願ひします。

# お餅を食べる会

1月2日

ケアハウス桜花 生活相談員 佐藤勝洋

新しい年が幕を開け、桜花ではお正月恒例の『お餅を食べる会』を行いました。香ばしい匂いに誘われて、入居者の方がお見えになり、職員も大慌てでお餅を焼いていきます。お雑煮を食べたばかりでも、別腹でしょうか？きなこ砂糖醤油など色々な味を楽しめました。給仕役の職員が着物でみなさまのお相手をするとお正月らしいわね」との声が聞かれ、穏やかな天候のもとで賑やかに正月気分を味わう事が出来ました。

また、翌日には『新春の集い』と題し、お茶とお菓子をつまみながら、坊主めぐりやカラオケをしました。昔を振り返って懐かしい話をしたり、世間話をしては、笑いがあちらこちらから聞かれていました。『笑う門には福来たる』、今年もよい年になりそうです。



## 介護実習で感じた事

静岡福祉大学

太田 貴大

私が介護実習を通して感じた事は、職員の方々の雰囲気の良い事です。職員さんの雰囲気というのは直接利用者に伝わり、不安や不穏になる要因のひとつだと思います。利用者へのケアを進めていく際には、職員さん同士の人間関係を作る事も大切なだと学びました。

麻機園の介護方針である『身体拘束をしない』という点もすごく魅力的だと思いました。口で言うのは簡単ですが、実際に行うには多大な労力と時間を要します。それを実践し、モットーとして掲げられる事は周りに誇れる事だと思います。

利用者さんにも介助者にも負担が少なく、また身体状況に応じた介助方法から、コミュニケーションや声かけの仕方まで、学校で机に向かって勉強しているだけでは学べない様な事を実践を通してたくさん教えて頂き、福祉従事者としてだけでなく、一人の人間として大きく成長する事が出来た介護実習でした。

施設長様はじめ職員の皆様、利用者の皆様には心から感謝致します。本当にありがとうございました。

## しぞーかおでんを食べる会

栄養士 三浦 温子

麻機園では『しぞーかおでんを食べる会』と称した食事会を行っています。少人数制で行うメリットを活かし、普段のお食事ではなかなか提供できない物を召し上がって頂いています。

今回は、寒い冬にはやっぱり「おでん」ということで『しぞーかおでんを食べる会』を行いました。目の前の熱々のおでんを見るなり「私は大根、黒はんぺん…」と各々が食べたい物を口に、フーフーしながらほおばっていました。和気あいあいの雰囲気でおでんを囲み、食も会話もより一層進んで、楽しいひとときを過ごせました。



曾祖母 村松翔一  
私が麻機園で働き始めて四年目になりました。その四年の間に四人の方が『百歳』という大台を突破されました。  
『百歳』を迎えられた方達の誕生会を行う度に、ひとりの人物を思い出します。それは私の曾祖母です。  
曾祖母は十年前に、『九十九歳十一月』で亡くなりました。自分が嘗む小さな鉄工所に毎日通いながら、その鉄工所から近い私の家に来ては、曾孫の私と遊んでくれていたそうです。  
「そろそろ百歳のお祝いの会をやるうか」と親族間で話を始めた頃、老衰による危篤状態となってしまうしました。  
最後に曾祖母に会ったのは亡くなる二日前でした。恐らく、この時に『介護』の世界に進もうと決めたように思います。  
今年は一人的方が『百歳』を迎えられました。これからもこの麻機園で、たくさんの方が百歳を迎える事でしょう。そして、その度私は曾祖母のことを思い出すのかなと思います。